

B—71 色彩嗜好調査法に関する検討（第3報） —嗜好色と個性との関連について—

愛国学園女子短大 戸塚 歌子

1. 色彩嗜好調査に関する総合的な検討の結果、灰台紙の妥当性を更に吟味し、ある集団の全体的嗜好傾向を構成する対象の、個別的傾向について気質と嗜好色の相関性および移行性に重点をおき、嗜好傾向の固定性、可動性が何に誘因するかを考察した。

2. 対象、本学園短大生（1・2年生60名）の特別眼の疾患のない者。時期、昭和38年11月及び39年2月。

①調査に使用した色票および台紙は、色研において作製し測定ずみのものである。前調査と同様灰台紙法を実施した。

②気質の判定にあたって、小保内氏による C.S.T. および内田クレペリン検査、デザイン学習による創作品、平常の観察、作文による学生の自己診断その他を基礎に

し総合判定した。

3. 好きな色，嫌いな色の全体的傾向および移行性については，前報に引き続き同じ対象（2年），異なった対象（1年）につき検討し同様な結果が得られた。

嗜好色と個性（気質）との関連は，これまでの調査結果を統計処理し，分析した結果各気質に固定的，可動的な嗜好傾向のあることが認められた。